

早くも5月からウェットスーツ

## 大峰 白川又川本谷(奥剣又谷)

GWはお決まりの関西の沢へ。日頃から百名谷を狙っている自分は、過去トマでGWに遡行したことがある白川又川に目を付けていた。幸いにもこんな企画にのってくれるメンバーが集まり、移動と遊びも含めた4泊5日のツアーに出発したのだった。

【日程】

2016年5月2日(月)  
~5月3日(火)

【メンバー】

寺内(主)、萩原、煤孫

【グレード】

4級下

【地形図】

釈迦ヶ岳、弥山

【記】寺内

5月2日(月) : 晴

前日夕方から車を走らせ奈良県へと入る。交代しながらの運転であつという間に着いた。早朝行者還トンネル西口の有料駐車場に向かうが、あと2台ほどで満車とかなりギリギリだった。駐車場から1600mの弁天の森まで一気に登り、尾根を伝って白川又川へと下降する。GPSのおかげもあるが、大筋しっかりした尾根状なのでスイスイ降りることができた。最後少し北側に降りてしまい、火吹谷に降り立つがロープは必要ない。しかし残念ながら火吹谷は早速の釜で泳がないととても突破はできず、本谷入渓前から早くもウェットスーツに着替えることとなる。炎天下の中分厚い生地に袖を通し、いざ出発。ウェットスーツを着ていなければ一瞬で心が折れそうになる水温の釜を4回入り、本谷に到着する。

2条4mの滝を越えると10mほどの淵。流れが緩やかなので各々泳いで突破する。エメラルドグリーンの流れが実に美しい。2条2m滝の釜はハギーがロープを引いて泳ぐ。続く15mの淵もついでに一緒に突破してもらおう。冷たい泳ぎは引いてもらうのが一番だ。すぐに両岸高い壁に囲まれるゴルジュとなり、左岸からはいくつもの赤い滝が水を落としている。なんとも異様な光景の中進んでいくと、急に開けてドーム状の空間に到着した。正面には斜めに落ちる10m滝が行く手を塞ぎ、右岸には迫力のあるCSのルンゼとガレ、左岸も連続した滝になっている。目の前の大釜の美しさにハギーは思わず泳ぎますが、まだ冷たさは健在で後には続かなかった。10m滝の突破は厳しく左岸の支流から巻く。右岸が抉れている20m淵はジャンケンで負けた煤孫さんがロープを引いた。続く30m淵はそれまでと違って廊下状の様相で、3mCS滝が栓をしているため左岸を巻く。またも現れた20m淵は残った自分がロープを引き、3mCS滝前の釜は左岸から巻いた。これで泳ぎのある淵や釜は終了だ。

水晶谷を右に見送ると正面には20mの大滝が現れる。過去の記録と同じく右岸のルンゼから巻くことにするが、側壁が悪くてなかなか尾根に上がれない。ルンゼの終了ギリギリでようやく右手に登れたが、そこからは平和に斜面を下り沢に戻ることができたので一安心だ。ナメや巨岩帯を進むと右壁から25mの滝が吹き出すように現れるが、高巻きになるのでここで幕をしたい。周囲を探すがなかなか見つからず、少し下流の砂地を何とか整地してツェルトを立てた。滝が近いので適度な風が吹き抜けていて焚き火の火力が強く、濡れた服もよく乾いた。久しぶりの沢での宴会に盛り上がり、無くなるか不安になった大量の食糧もあつという間に無くなってしまった。



きれいな淵を華麗に泳ぐ

5月3日（火）：曇時々晴（強風）

翌朝一番で大滝の高巻きを開始する。口剣又谷出合いのガレから登り滝を越えるが、多少滑りやすいとは言えあっさりと越えてしまったので、昨日もう少し進んでも良かったかもしれない。堰堤状の4m滝を越えると、右岸にはテン場となりそうな台地が散見された。幅広の20m滝を左のガレから



迫力のある幅広20m滝

越えると白い岩肌の様相となり明るくなる。ナメヤ河原状が出てくるようになり歩きやすい。適度に小難しい小滝をクリアしながら高度を上げていくと、美しい3段12mナメ滝、2段15m滝が連続して現れた。2段15m滝はいかにも登れそうだがロープを出していると時間がかかりそうなので、自分だけ左岸から巻く。しかしこれが思ったより厳しく、ヒィヒィ言いながらやっとの思いで抜け出すことができた。沢に戻るころには、ハギーがとっくに支

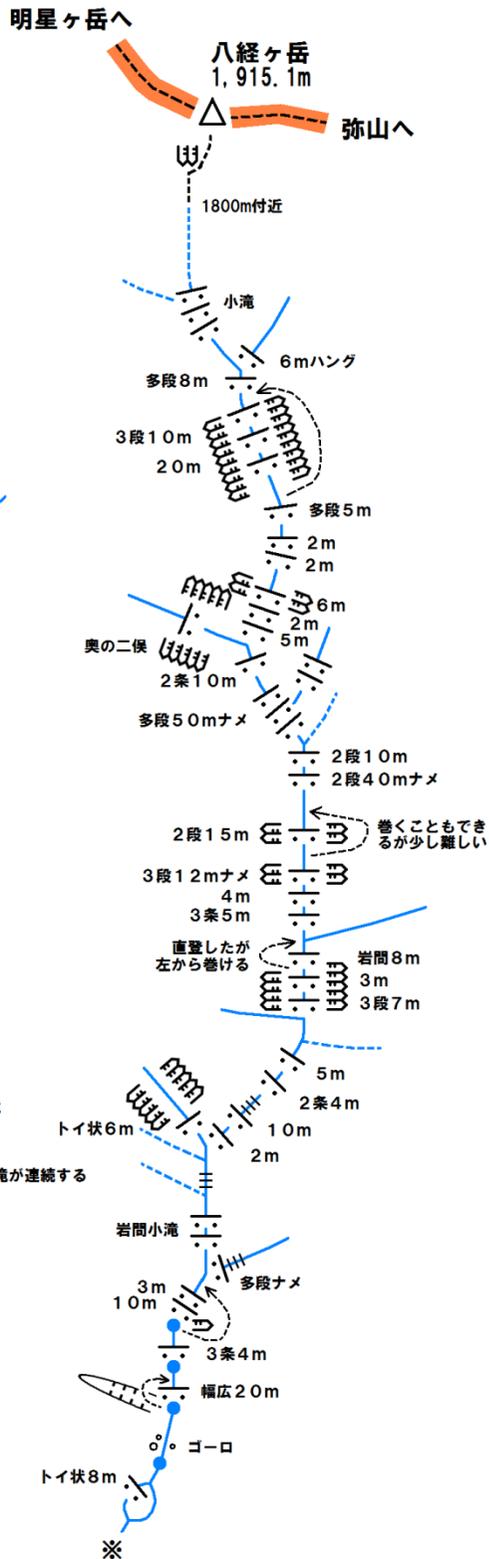
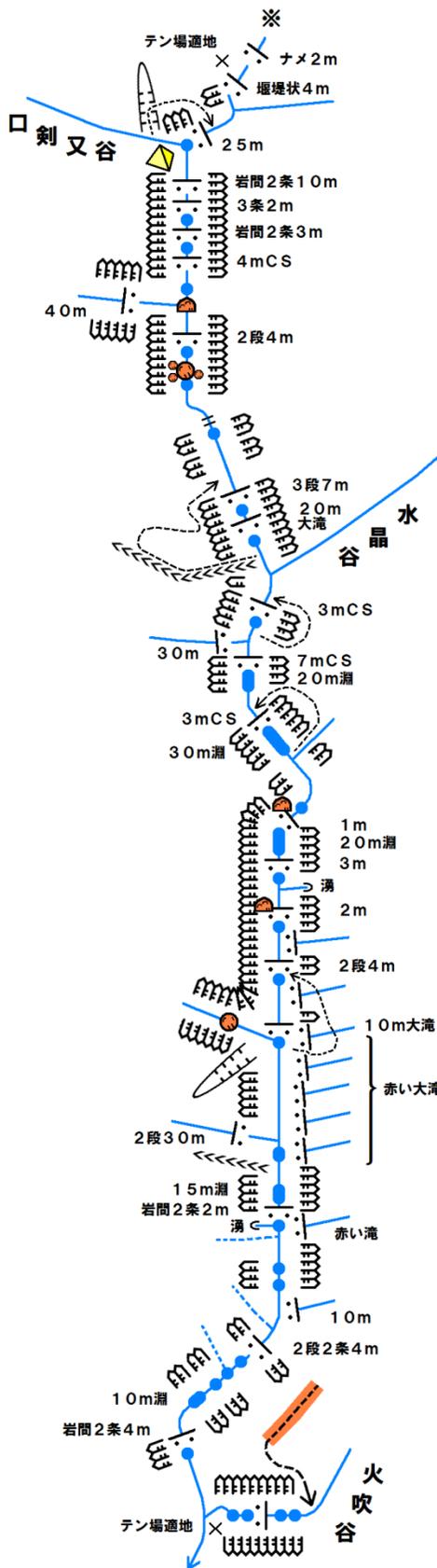
点を作っていて煤孫さんがフォローで登っている。ここは直登した方が良かったかもしれない。迫力のある2段40mのナメ滝は上部を自分がリードしたが、ホールドが多数あり難しくはない。どこで区切れればいかわからない50mほどのナメ滝を越えると全体的にガレた雰囲気となってきた。順当に沢を進んでいくとゴルジュとなり、とても突破できそうにない20m滝が現れて驚愕する。左岸から一気に巻いて沢に降りると水はかなり少なくなっていた。6mのハング滝がある支流が本流に感じたが、山頂に直接上がるのは左の支流のため水がほとんどない左へ入る。急に強風が吹き荒れ周囲はガスがものすごい勢いで過ぎ去っていく中、どんどん登っていく。ようやく沢型が無くなるが、芝生状に林が続く斜面となりヤブはほとんどない。最後に岩壁が出てきたが右から巻くと山頂の看板の真裏に出た。あいにくの曇り空&強風により人はいなかったが、しばらくするとカラフルなカップルが1組だけ登ってきた。こんな天気の中、よく来るなど感心する。立っているのも厳しいほどの強風だったので、我々も長居はせずそそくさと下山を開始した。弥山には人が何人もいて、これから登る人達とも数人すれ違い、さすがにGWだという様子だ。これからのGWスケジュールをウキウキと話しながら行者還トンネルへ戻り、奈良の街へと車を走らせたのだった。

### 【行程】

- 5/2 行者還トンネル西口 (6:40)
  - ～弁天の森 (7:50/8:05)
  - ～火吹谷 (10:40/11:15)
  - ～水晶谷出合 (14:40)
  - ～口剣又谷出合 BP (16:00)
- 5/3 BP (6:00) ～奥の二俣 (09:50)
  - ～八経ヶ岳 (11:55/12:10)
  - ～行者還トンネル西口 (14:35)



2段40m ロープを出すのが簡単に登れた



## 白川又川本谷

廻行：2016/5/2~3  
 作図：寺内